

# 川島町立小学校規模適正化基本方針についてお知らせします

## ■ 学校規模適正化のための基本的な考え方

児童が、集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくという、学校の特質を踏まえ、一定の集団規模が確保されていることが望ましい、という観点に立ちます。

## ■ 学校規模適正化の背景（学校の現状）

昭和60年代以降、児童数が減少しています。  
特に、三保谷、出丸、八ツ保、小見野の4小学校は小規模化が顕著です。  
4校は、すべて1学年1クラスであり、児童数が1ケタのクラスもあります。  
男女間の数にアンバランスが生じています。

## ■ 学校規模適正化基本方針を決定するまでの経緯

- ① 学校規模適正化の検討に向けての有識者会議  
平成23年度に、有識者を集め、学校規模の適正化の検討を始めました。
- ② 学校規模適正化研究会  
平成24年度に、小規模校のメリット・デメリットを研究しました。学校、保護者に対するアンケート調査結果から、メリットもありますが、数多くのデメリットがあることが分かりました。

区分	メリット	デメリット
学 習 活動面	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かな指導が行える。</li> <li>児童の実態を把握しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な見方、考え方が育ちにくい。</li> <li>成績が序列化しやすい。</li> <li>学力向上に結びつかない恐れがある。</li> </ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係が深まりやすい。</li> <li>思いやりやさしさが育まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係が固定化されやすい。</li> <li>人間関係が壊れると修復が難しい。</li> <li>男女間の人数にアンバランスが生じやすい。</li> <li>切磋琢磨する機会が少ない。</li> </ul>
学 校 運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の目が行き届きやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時に十分な対応がとれない恐れがある。</li> <li>地域、保護者への依頼度が高い。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域とともに子どもたちを育てる雰囲気醸成される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行行事で保護者負担が多くなる。</li> <li>P T A活動で、保護者の負担感が増す。</li> </ul>

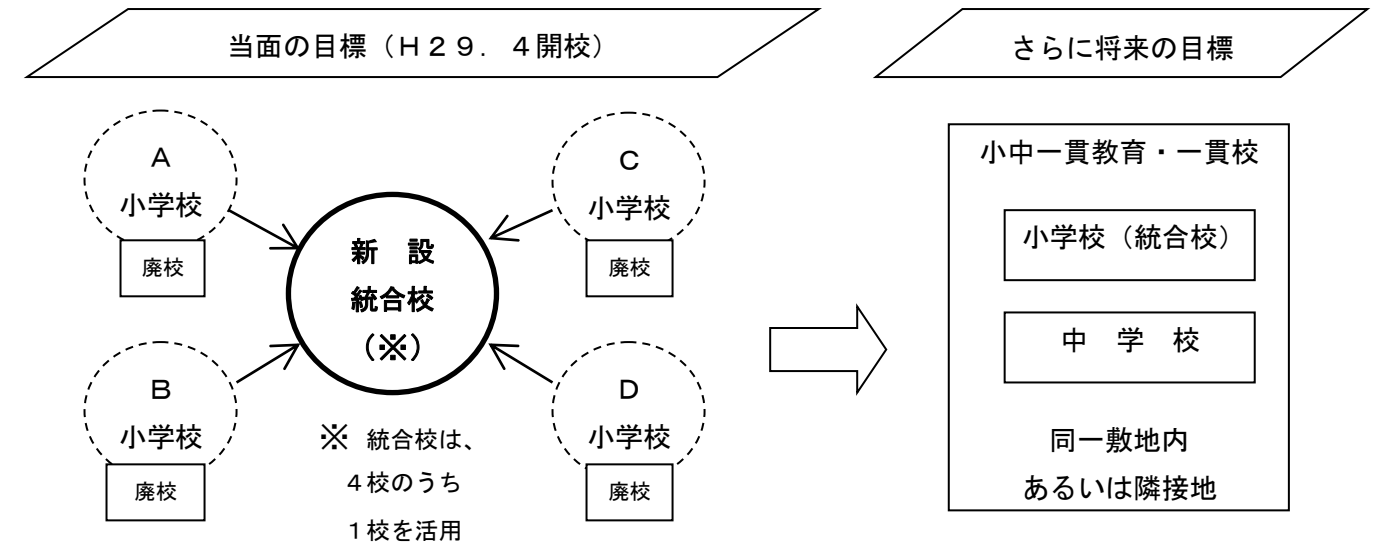
- ③ 学校規模適正化検討委員会  
平成25・26年度に、学校規模適正化に関する方針について検討し、平成26年5月に、学校規模適正化基本方針の報告書が教育委員会に提出されました。

## ■ 学校規模適正化基本方針

教育委員会は、学校規模適正化検討委員会からの報告を受け、平成26年11月26日に委員会としての方針を定めました。

- クラス数の適正な規模  
「1学年あたりの学級数は複数」「全学年の学級数は12～18学級とする」
- 統廃合の対象校  
三保谷小学校、出丸小学校、八ツ保小学校、小見野小学校
- 方策と統合校の設置場所  
将来的には中学校に隣接又は敷地内に新築し、小中一貫校としたいが、  
当面の課題を早急に解消したいため、4校のいずれかを使用

イメージ



## ■ 学校規模適正化に伴う教育環境整備

また、適正化と併せて、つぎのことも進めます。

- ・スクールバスを含めて通学路の安全確保を図ります。
- ・施設設備の改善と教材の充実を図ります。
- ・児童の心のケアに対応するため、教員の加配や相談員等の配置を図ります。
- ・少人数学級（30人学級）の推進を図ります。

## ■ 学校の廃校による跡地利用の考え方

地域の皆様のご意見をいただきながら、教育部局だけでなく全庁的な行政施策として捉えて、検討していきます。